

# 少林少女

2008(平成20)年3月27日鑑賞〈東宝試写室〉

★★★



監督＝本広克行／製作＝亀山千広／エグゼクティブプロデューサー＝チャウ・シンチー／出演＝柴咲コウ／仲村トオル／江口洋介／張雨綺／岡村隆史／ティン・カイマン／ラム・チャーヨン（東宝配給／2008年日本映画／107分）

## 第1章

アクションからコメディまで

……「少林少女」柴咲コウのカッコ良さは抜群だが、前半はどちらかという  
とラクロス少女……。クライマックスは、仲村トオルが演ずる最強を求め  
るストイックな学長と少林少女との頂上決戦！ あなたの「お好み」はさて  
おき、そこで展開されるこれぞ最新CGという映像美をタップリと……。

### 少林少女？ それともラクロス少女？

この映画のタイトルは『少林少女』。しかして、中国少林寺での3000日修行を終え、  
日本に少林寺拳法を普及するべく戻ってきた少女桜沢凜を演ずる柴咲コウは、この映  
画のために徹底した少林寺拳法の修行をしたことは、その美しい身体のさばき方をみ  
れば明らか。

他方、そんな凜を国際星館大学の女子ラクロス部に誘ったのは、凜のかつての兄弟  
子岩井拳児（江口洋介）が経営している中華食堂でアルバイトをしている中国人の女  
子劉珉珉（張雨綺）。

この映画は以降、珉珉が少林寺を習うことを交換条件としてラクロスをやることにな  
った凜のKY（空気が読めない）ぶりを焦点として展開していくから、少林少女とい  
うよりむしろラクロス少女……？

### 法科大学院あれこれ、大学あれこれ

去る3月26日、法科大学院の授業や修了認定などが適正か否かを審査する認証評価  
機関の1つである日弁連法務研究財団は、愛知大学法科大学院について初の「不適  
合」とする評価結果を公表した。また3月27日、法科大学院の評価機関である大学評

価・学位授与機構は、一橋大学、千葉大学、北海道大学、香川大学の4校の法科大学院について、それぞれ「不適合」と認定した。これが、今後の法科大学院のあり方について大きな反響を呼ぶことは明らかだ。

しかし、この映画にみる国際星館大学の学長大場雄一郎（仲村トオル）の経営方針は自信満々で、国際星館大学は経営も教育も理想どおり行われているよう……？

## 大場学長が目指すものは……？

他方、大場は格闘技においても最強者であることを目指しているらしく、部屋の中には道場破りで奪った看板がいっぱい。かつて凧が学んでいたのは凧の祖父が開いた少林拳練功道場だったが、その道場は今は閉じられ、その看板も大場の手に。

この映画のハイライトはそんな大場と、気が満ちてくるととてつもないパワーを発揮する少林少女凧との頂上決戦。さて、本広克行監督は、最新のCG技術をふんだんに活用してその対決シーンをどのように表現するのだろうか……？

1930年代の上海を舞台としたシリアスな中国のスパイ映画『パープル・バタフライ（紫蝴蝶）』（03年）で中国ナンバーワン女優章子怡チャン・ツイイーと共演し、いい味を出していた国際派俳優仲村トオルが、この映画では笑顔を忘れ、目標のためにストイックに努力を続ける男大場雄一郎を熱演しているが……。

## 岡村隆史起用の功罪は……？

『少林少女』はもともとシリアスな映画を目指したのではなくエンターテインメント映画だが、凧の生き方は真剣そのものだし、ラクロスを通した岩井の凧へのアドバイスも真剣なもの。また、そんな凧と最強者を決定するため対決したいと願う大場の生き方も真剣そのもの。

ところが、ラクロスの試合を含めたそんなさまざまな真剣勝負に水をさす（？）のが、ナイナイの岡村隆史演ずる教務課職員の田村龍司。登場するたびにバラエティ番組そのもののようなギャグをスクリーン上で乱発するのはいかがなものか、と私は思うのだが、実はその田村も最後にはある真剣な闘いを……？ そりゃ彼だって、『無問題』（99年）、『無問題2』（01年）でみせた格闘技の技術は超一流だもの……？

## 🎬 『カンフーくん』 と比べると……

2月19日に観た『カンフーくん』(07年)は、少林寺三十五房まで勝ち抜いた8歳の天才少年が来日して大活躍するマンガチックな映画だった。柴咲コウ主演の『少林少女』はそれよりずっと大人の映画だと私は思っていたが、さてその実態は……？

ちなみに、凜と大場の頂上対決の前座となる(?)、中華料理店の調理人ティン(ティン・カイマン)と太った店員ラム(ラム・チーチョン)による、多数の大場の部下たちとの闘いぶりをみていると、『カンフーくん』とよく似たマンガ的(?)雰囲気がいっぱい。

さらに、この映画のクライマックスとなる凜と大場との対決シーンは最新のCG技術を駆使した美しいもののだが、私の目にはその奇想天外な工夫の数々はちょっとひねりすぎ……？

## 🎬 株安ニッポンの中、東宝の株は……？

福田内閣の発足から6カ月後の2008年3月、日本は急激なドル安・円高そして株安に見舞われ、日経平均株価は1万3000円を割り込んだ。

私は1株2400円で買った東宝の株を1000株持っているから、その資金は240万円。他に持っている東京テアトル、オーエス、松竹、東映等の株価と比べると東宝のそれはベラボウに高いから、その面からも東宝の1人勝ちは明らか。また、株価が平均25%も下落したにもかかわらず、東宝のそれは2200~2300円にしか下がっていないから底堅い。それをみても、東宝の1人勝ちは明らか！

そんな中、『踊る大捜査線 THE MOVIE』(98年)で大ヒットを飛ばした本広克行監督が、製作の亀山千広、エグゼクティブプロデューサーのチャウ・シンチーとタッグを組んでしっかりリサーチしたうえで発表したのが『少林少女』だから、その大ヒットはまちがいないし！

2008(平成20)年3月31日記